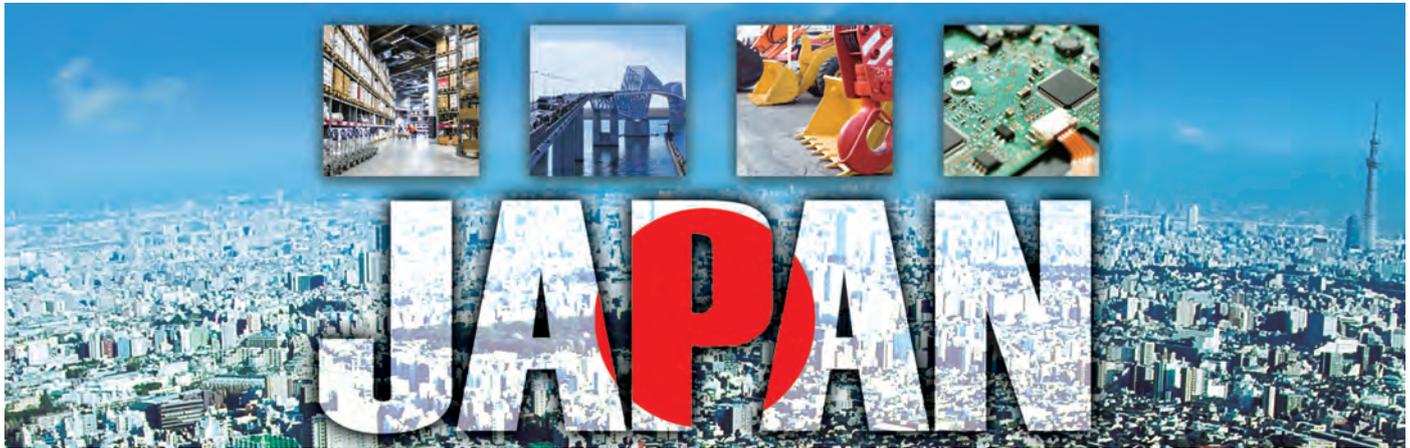


販売用資料
(2022年3月作成)

日本新興株オープン

追加型投信／国内／株式



【三菱UFJ銀行からのご留意いただきたい事項】

- ◎当ファンドは、預金ではなく、三菱UFJ銀行は元本を保証しておりません。また、預金保険制度の対象ではありません。
- ◎当ファンドは、**値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動リスク等があり、お受取金額が投資元金を大きく下回ることがあります。したがって投資元金および運用成果が保証されているものではありません。**
- ◎ご購入に際しては、**購入時手数料(ご購入金額に対し、一律3.3%(税込))および保有期間中の運用管理費用(信託報酬)等の費用がかかります。**
- ◎ご購入に際しては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」により商品内容を必ずご確認くださいの上、ご自身でご判断ください。
- ◎当ファンドをお取引いただくか否かが、三菱UFJ銀行におけるお客さまの他の取引に影響を与えることはありません。
- ◎当ファンドの購入代金に充当するための借入れを前提としたお申込みはお受けできません。

【金融商品仲介口座を通じたご購入について】

- ・当ファンドは三菱UFJ銀行の投資信託口座のほかに金融商品仲介口座(三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座)を通じたお取扱いをしております。
- ・金融商品仲介口座を通じたご購入に際しては、あらかじめ三菱UFJモルガン・スタンレー証券の証券取引口座の開設が必要です(金融商品仲介口座の開設をお申込みいただくと、お取引口座は三菱UFJモルガン・スタンレー証券に開設されます)。

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。
投資信託説明書(交付目論見書)は、三菱UFJ銀行の本・支店までご請求ください。

投資信託口座を通じたお取扱いの場合
お申込み・販売会社は



株式会社三菱UFJ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号
加入協会:日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合
お問合せ・ご照会先



株式会社三菱UFJ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号
加入協会:日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、
一般社団法人日本投資顧問業協会

委託金融商品取引業者・販売会社は

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号
加入協会:日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

「日本新興株オープン」が投資対象とする JASDAQ市場とはどんな市場ですか？

JAPAN

成長企業やベンチャー企業（新興企業）が
上場する株式市場として広く認知されています。

- JASDAQ市場は、上場こそしていないものの、高い成長が期待できるベンチャー企業（新興企業）の株式をやり取りする「店頭登録制度」から始まる50年を超える歴史を持つ市場であり、2000年代初めに上場市場を補完する現在の形に整備されました。
- 現在は、東京証券取引所の一部門として新興企業と投資家の間に立ち、株式投資を通じた新興企業への資金提供の一翼を担っています。

JASDAQ市場は、東京証券取引所の
第2部市場を凌駕する規模にまで成長しています。

代表的な国内株式市場

(2021年12月末現在)

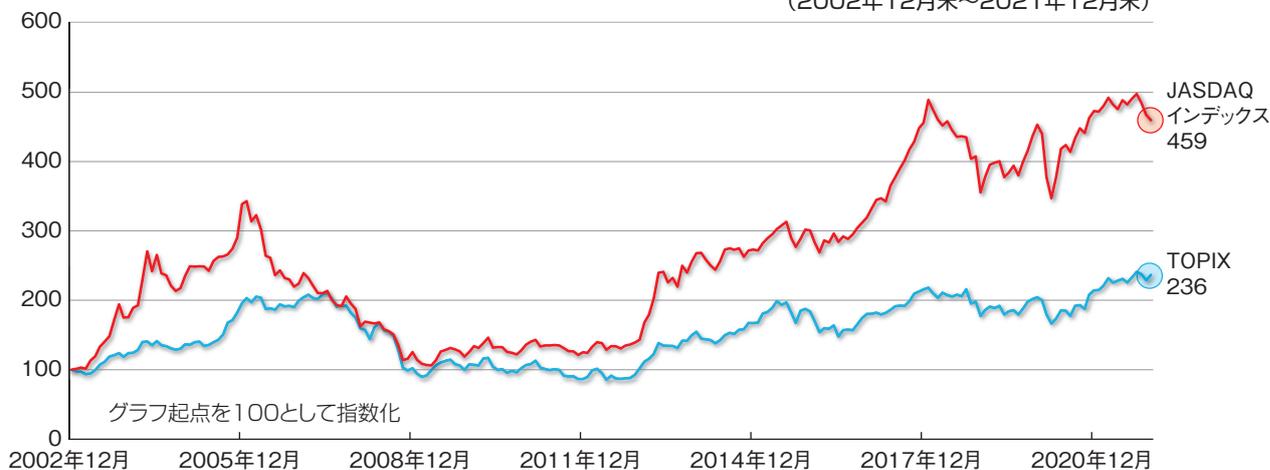
	上場銘柄数	時価総額
東京証券取引所 第一部	約2,180銘柄	約728兆円
東京証券取引所 第二部	約470銘柄	約5.8兆円
JASDAQ市場	約690銘柄	約10.1兆円

出所:東京証券取引所

JASDAQ市場は、長期的に見るとTOPIX（東証株価指数）を
上回るパフォーマンスを上げています。

JASDAQインデックスとTOPIXのパフォーマンス

(2002年12月末～2021年12月末)



- 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成しています。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

東京証券取引所における市場区分見直しを受け、JASDAQ上場企業は2022年4月4日以降、東京証券取引所のグロース市場ないしスタンダード市場に上場されることとなります。

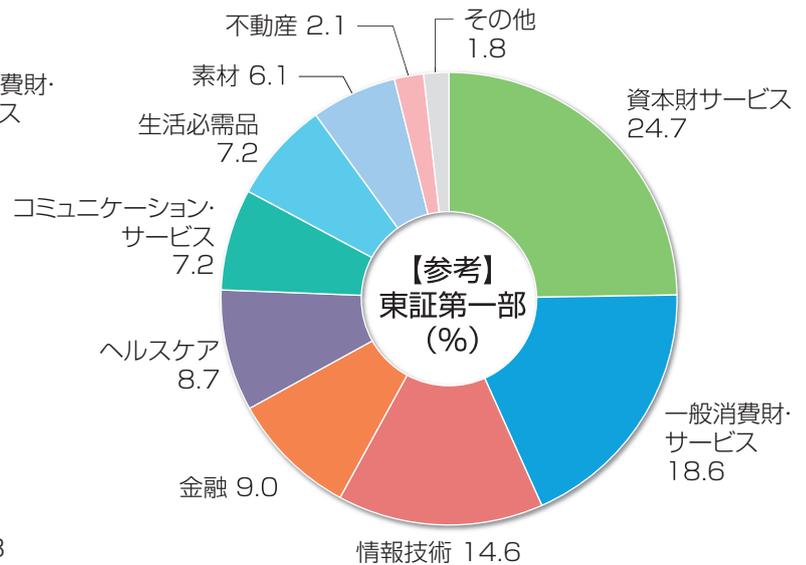
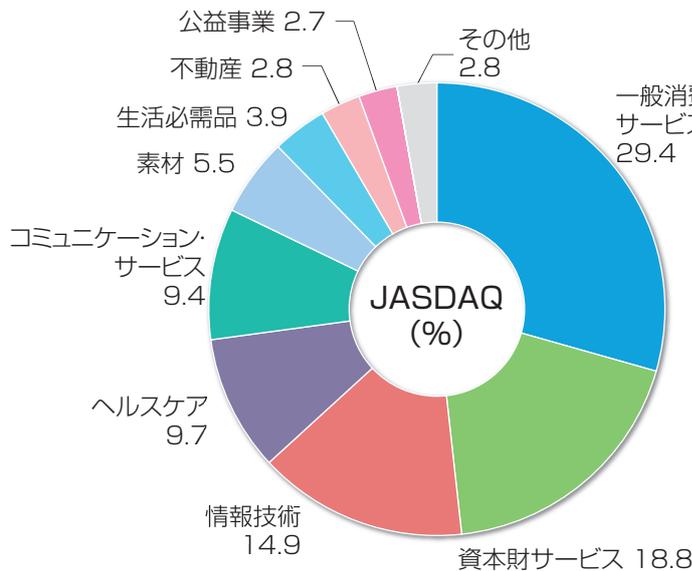
あらためて踏まえておきたい JASDAQ市場の特性



JASDAQ市場には、IT関連やサービス業（一般消費財）など、多くの設備を必要としない身軽な企業や、創業間もない企業が多く上場しています。

JASDAQ市場の業種（産業）別比率

（2021年12月末現在）



新興企業については、株価が値下がりする場合も多くありますが、銘柄によっては数倍となるなど大きく値上がりすることから、相対的に高いリターンを期待できます。

JASDAQ市場の直近1年間の騰落率ランキング

（2021年12月末現在）

騰落率上位10銘柄	騰落率	順位	騰落率下位10銘柄	騰落率
シーズメン	232%	1	出前館	-71%
壽屋	219%	2	ディーエムソリューションズ	-68%
太洋物産	218%	3	MITホールディングス	-66%
三ツ星	208%	4	まぐまぐ	-62%
シンバイオ製薬	202%	5	ニューテック	-62%
芝浦電子	180%	6	不二精機	-60%
SEMITEC	178%	7	ピクセルカンパニーズ	-60%
平賀	162%	8	ジオコード	-59%
Mipox	155%	9	アースインフィニティ	-57%
フェローテックホールディングス	142%	10	テラ	-57%

（ご注意）JASDAQ市場は株価が振れやすいものもさることながら、取引量が極めて少なくなる銘柄があることから、投資に際しては機動的な判断や対応が必要と考えられます。

- 業種別比率の数値は端数処理を行っており、合計が100とならない場合があります。
- 騰落率ランキングは2020年12月末および2021年12月末共に売買が成立した銘柄の騰落率をもとに、JASDAQ上場銘柄の年間騰落率上位／下位銘柄を記載したものであり、当ファンドにおける当該銘柄の保有の有無の示唆や、当該銘柄の売買の推奨を行なうものでもありません。
- 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成しています。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

東京証券取引所における市場区分見直しを受け、JASDAQ上場企業は2022年4月4日以降、東京証券取引所のグロース市場ないしスタンダード市場に上場されることとなります。

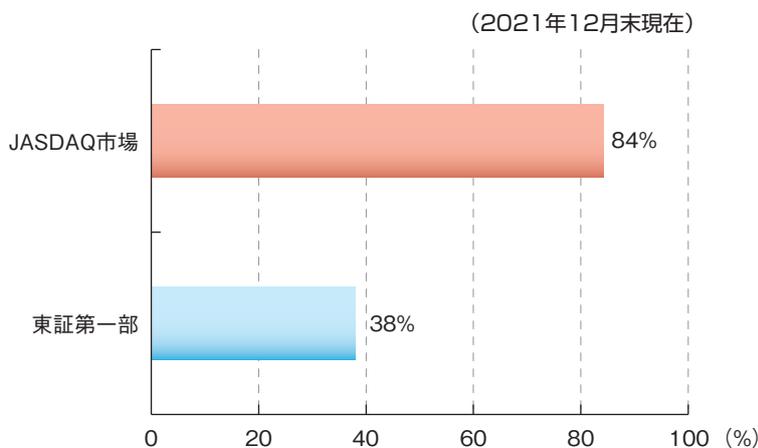
「日本新興株オープン」を通して JASDAQ市場に投資するメリットは何ですか？

JAPAN

情報量が一般的な株式市場に比べて限られることから、
調査に基づき適切な判断ができるファンドが優位と考えます。

- 新興株市場への投資において、重要な要素の一つとして企業情報があります。一般的な株式市場に比べ新興市場は個別企業に対する調査体制が整っておらず、JASDAQインデックスで見た場合、約8割の企業がアナリストによる投資推奨(投資判断)が行なわれていません。

推奨なし銘柄(数)の比率



- 東証第一部はTOPIX、JASDAQ市場はJASDAQインデックスのカバレッジ比率をもとに作成しています。
- 信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成しています。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

JASDAQ市場への投資で、より効果的な投資収益の
獲得をめざすためには、銘柄の選択とともに、
機動的な投資判断が重要と考えられます。

つまり、新興市場株式に投資を行なうファンドを選ぶ際には、
運用会社の「調査能力」を吟味する必要があります。

- 「日本新興株オープン」は、ファンドマネージャー(運用者)が、自ら企業の経営陣と直接面談を行なえる調査体制を整えています。
- 経営陣の手腕が企業業績に与える影響が大きい新興市場株式の場合、情報面で優位にあることは、投資判断を行なう上で有効と考えられます。

東京証券取引所における市場区分見直しを受け、JASDAQ上場企業は2022年4月4日以降、東京証券取引所のグロース市場ないしスタンダード市場に上場されることとなります。

高いパフォーマンスを支える 銘柄選別と投資銘柄の入れ替え



※比率は純資産総額比です。

当ファンドの組入上位10銘柄(2020年12月末、銘柄数:84銘柄)

	銘柄名	業種	比率※
1	ハーモニック・ドライブ・システムズ	機械	5.56%
2	日本マクドナルドホールディングス	小売業	3.23%
3	ナカニシ	精密機器	2.50%
4	小田原エンジニアリング	機械	2.36%
5	ウエストホールディングス	建設業	2.23%
6	NITTOKU	機械	2.22%
7	ニッポン高度紙工業	パルプ・紙	2.06%
8	芝浦電子	電気機器	1.99%
9	テモナ	情報・通信業	1.97%
10	フリー	情報・通信業	1.97%

当ファンドの組入上位10銘柄(2021年6月末、銘柄数:84銘柄)

	銘柄名	業種	比率※
1	ハーモニック・ドライブ・システムズ	機械	3.77%
2	芝浦電子	電気機器	3.35%
3	ニッポン高度紙工業	パルプ・紙	3.03%
4	東映アニメーション	情報・通信業	2.89%
5	日本マクドナルドホールディングス	小売業	2.80%
6	Macbee Planet	サービス業	2.61%
7	セルソース	医薬品	2.44%
8	ケアネット	サービス業	2.11%
9	フェローテックホールディングス	電気機器	2.08%
10	マネーフォワード	情報・通信業	1.98%

当ファンドの組入上位10銘柄(2021年12月末、銘柄数:87銘柄)

	銘柄名	業種	比率※
1	芝浦電子	電気機器	4.05%
2	日本マクドナルドホールディングス	小売業	2.93%
3	SEMITEC	電気機器	2.84%
4	アンビスホールディングス	サービス業	2.50%
5	日本電解	非鉄金属	2.31%
6	ニッポン高度紙工業	パルプ・紙	2.20%
7	ウエストホールディングス	建設業	2.20%
8	ブシロード	その他製品	2.14%
9	ポート	サービス業	1.97%
10	ハーモニック・ドライブ・システムズ	機械	1.90%

- 上記銘柄について、将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

1 JASDAQ上場株式*に投資します。

- JASDAQ上場株式*(これに類する新興企業市場において取引される株式を含みます。)の中から、中長期的に成長が期待できる企業および業績の回復が見込める企業の株式に投資を行ないます。

*東京証券取引所における市場区分見直しを受けて、2022年4月4日以降は、「東京証券取引所のグロース市場およびスタンダード市場(これに類する新興企業市場を含みます。)に上場されている新興企業の株式」となります。

- 新興企業は、相対的に企業規模が小さく、社会構造の変化に柔軟に対応することなどによって、大きな成長を遂げる可能性を秘めています。

2 ボトムアップ・アプローチで投資銘柄を厳選します。

- ボトムアップ・アプローチを基本として銘柄を選別します。
- ポートフォリオ構築にあたっては、厳選投資の態度で臨み、組入銘柄数は原則として50~100銘柄程度とします。なお、組入銘柄の見直しは、企業調査の結果などをもとに、随時行ないます。

ボトムアップ・アプローチとは、ファンドマネージャー、企業調査アナリストが直接企業訪問するなどして行なった調査に基づき、個別銘柄を分析する手法です。

3 株式組入比率は原則として高位を維持します。

- 株式組入比率は、高位を維持することを基本とします。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

過去5年間の基準価額の推移



- 基準価額は運用管理費用(信託報酬)(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- 税引前分配金再投資ベースは、グラフ期初の基準価額を起点として指数化したものであり、分配金(税引前)を再投資したものととして算出した理論上のものである点にご留意ください。
- JASDAQインデックスはグラフの起点の当ファンドの基準価額をもとに指数化しています。また、同指数は当ファンドのベンチマークではありません。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

足元のポートフォリオの状況



基準価額と純資産総額の推移(過去10年分)



	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
騰落率	-2.53%	-1.45%	1.32%	11.68%	66.15%	652.40%

- 基準価額は運用管理費用(信託報酬)(後述の「手数料等%の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- 税引前分配金再投資ベースは、グラフ期初の基準価額を起点として指数化したものであり、分配金(税引前)を再投資したものととして算出した理論上のものである点にご留意ください。なお、当グラフでは分配金の支払いがあった2015年12月18日以降のデータを掲載しています。
- 騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意ください。また、受益権の分割(1999年11月1日実施)も考慮しています。

ポートフォリオの概要

(2021年12月末現在)

	業種構成比率	比率
1	情報・通信業	29.2%
2	サービス業	22.1%
3	電気機器	13.5%
4	機械	7.0%
5	小売業	5.0%

	時価総額別比率	比率
	500億円未満	57.7%
	500億円以上1,000億円未満	18.4%
	1,000億円以上2,000億円未満	9.3%
	2,000億円以上	14.7%

	市場別構成比率	比率
	一部上場	2.7%
	二部上場	1.1%
	JASDAQ	39.7%
	マザーズ	56.6%
	その他	0.0%

分配金実績

2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12
100円	100円	100円	100円	100円

- 分配金は税引前の1万口当たりの値です。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
- ポートフォリオの概要の各数値は組入株式評価額の合計額に対する比率です。
- 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当ファンドでは、JASDAQ上場株式およびこれに類する新興企業市場において取引される株式を投資対象としています。ボトムアップアプローチで銘柄を選別した結果、JASDAQ上場株式以外の割合がJASDAQ上場株式の割合よりも高くなる場合があります。

高いパフォーマンスが期待される 足元の投資銘柄のご紹介①

JAPAN

芝浦電子 (6957)

- 業種 電気機器
- 時価総額 約680億円

事業概要

エアコンや冷蔵庫、電子レンジをはじめとする家電製品、複写機などのOA機器、自動車などで使用されるサーミスタ素子(温度変化により抵抗値が変化することで温度を計る電子部品)や温度・湿度などの各種センサー部品を手掛ける。

株価推移

(2015年1月初～2021年12月末)



日本マクドナルドホールディングス (2702)

- 業種 小売業
- 時価総額 約6,770億円

事業概要

1971年設立のハンバーガーチェーン大手。1971年7月の銀座三越店を皮切りにチェーン展開し、ハンバーガー、フィレオフィッシュ、マックフライドポテト、マックシェイクなどを販売。店舗での販売以外にもドライブスルーや宅配サービスも手掛ける。

株価推移

(2015年1月初～2021年12月末)



SEMITEC (6626)

- 業種 電気機器
- 時価総額 約410億円

事業概要

機器の正確な動作を支える各種センサーのメーカーで、温度センサーのサーミスタが主力製品。複合機やプリンターなどのOA機器向けがかつては中心だったが、ハイブリッドカー、EV(電気自動車)の電池パックなどの自動車向け、カテーテルや電子体温計などの医療関連向けが伸びている。

株価推移

(2015年1月初～2021年12月末)



(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※ 上記は2021年12月末現在の組入上位銘柄を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

高いパフォーマンスが期待される 足元の投資銘柄のご紹介②



アンビスホールディングス (7071)

- 業種 サービス業
- 時価総額 約2,570億円

事業概要

がんや難病患者などの終末期・慢性期のケアに特化した住宅型有料老人ホーム「医心館」を、首都圏中心に42施設展開(2021年9月末現在)。入居者とほぼ同数の看護師と介護士を配し、往診する主治医(外部医師)と連携しながら、24時間体制で入居者に高度で手厚いケアを行なう。

株価推移

(2019年10月8日~2021年12月末)



日本電解 (5759)

- 業種 非鉄金属
- 時価総額 約400億円

事業概要

ハイブリッドカー、EVなどに搭載するリチウムイオン電池や高速通信規格「5G」関連デバイスに使う電解銅箔の専門メーカー。EVなどの航続距離をより延ばせる、付加価値の高いハイエンド製品に特化。車載電池用のシェアは国内で5割強、北米で4割強(2020年時点)。

株価推移

(2021年6月25日~2021年12月末)



ニッポン高度紙工業 (3891)

- 業種 パルプ・紙
- 時価総額 約310億円

事業概要

各種の電子機器・家電製品に幅広く使われるアルミ電解コンデンサの構成パーツであるセパレータを、土佐和紙を加工した「高度紙」で製造。同セパレータの製造・販売で国内市場をほぼ独占、世界でも過半のシェアを占めるトップメーカー。電池用セパレータも手掛ける。

株価推移

(2015年1月初~2021年12月末)



(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※上記は2021年12月末現在の組入上位銘柄を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

当ファンドの主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- 中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

【流動性リスク】

- 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- 一般に中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高いと考えられます。

【信用リスク】

- 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

お申込みに際しての留意事項②



その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※三菱UFJ銀行でお申込みの場合

お申込みメモ

- 商品分類 : 追加型投信/国内/株式
- 購入単位 : 分配金再投資コース(累積投資コース):1万円以上1円単位
購入単位には購入時手数料(税込)が含まれます。
再投資される分配金については、1口単位とします。
投資信託口座を通じたお申込みの場合は上記以外の購入単位でのお取扱いもございます。
くわしくは、三菱UFJ銀行のホームページをご覧ください。
- 購入価額 : 購入申込受付日の基準価額
※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。
- 信託期間 : 2026年12月18日まで(1996年12月27日設定)
- 決算日 : 毎年12月18日(休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 : 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- 換金単位 : 投資信託口座:1円以上1円単位、または1口以上1口単位、または全部。
金融商品仲介口座:1口以上1口単位、または全部。
- 換金価額 : 換金申込受付日の基準価額
- 換金代金 : 原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 : 原則として、販売会社の営業日の午後3時まで、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。
- 換金制限 : ファンドの規模および商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間制限および金額制限を行なう場合があります。
- 繰上償還 : 次のいずれかの場合等には、繰上償還することがあります。
 - ・ファンドの受益権の口数が10億口を下回るようになった場合
 - ・繰上償還することが受益者のために有利であると認めるとき
 - ・やむを得ない事情が発生したとき
- 課税関係 : 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。
※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」の適用対象です。
※配当控除の適用があります。
※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

- 購入時手数料 : 一律3.3%(税抜3%)を購入金額に乗じて得た額とします。
※購入金額=購入価額(1口当たり)×購入口数
※インターネット取引でご購入の場合は、上記手数料率から10%優遇。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
- 換金手数料 : ありません。
- 信託財産留保額 : ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

- 運用管理費用(信託報酬) : ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.672%(税抜1.52%)
- その他の費用・手数料 : 監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。
※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 : 日興アセットマネジメント株式会社
[ホームページ] www.nikkoam.com/
[コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)
- 受託会社 : みずほ信託銀行株式会社
- 販売会社 : [投資信託口座を通じたお取扱いの場合]株式会社三菱UFJ銀行
[金融商品仲介口座を通じたお取扱いの場合]三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
(金融商品仲介業務等を行う登録金融機関:株式会社三菱UFJ銀行)